

第60話 スタジオ夜話(番外編)

サウンドドラマの制作

ミキシング I

☆ はじめに

東京では3月半ば過ぎに開花しました。今年は暖かい春になりそうな気配です。筆者の住む伊豆では2月には早咲きの河津桜や大島桜が咲き、5月初頭まで色々な桜が楽しめます。一度お出かけください。

さてスタジオ夜話番外編、今回から制作にかかわる具体的なお話になります。基本的にはミキシングのお話なのですが、実はこのミキシングのお話は演出のお話と言っても間違いではありません。技術的な話と演出的な話をどうも区別する習慣がこの業界にはあるらしく？制作環境的にも演出と技術を分けて語られる傾向にあります。

スタジオ夜話的にはこのへんが問題であり、具体的制作にかかわるお話しをする時には避けては通れないポイントとなります。今回はその基本的な考え方についてお話しを進めます。お付き合いをお願いいたします。

☆優れたミキシングとは？優秀な録音とはどんな録音？

業界では優れた録音の作品に様々な賞が授与されています。良いことではあるのでしょう。筆者の知人でも賞をいただいた経験のあるエンジニアがいます。しかし賞をいただいたことの無いエンジニアの知り合いも多数います。皆それぞれ優秀なプロのエンジニアです。読者皆様も優れたエンジニアや演出家の方々だと確信しています。では優れた賞をとる優秀な録音とはどんなものなのでしょう。筆者の知るところでは「無名の有名でないアーティストのメジャーレーベルでない作品、そして優秀なエンジニアの録音」であっても賞を取った話は知

りません。賞をとった作品の多くは概ね「有名アーティストの作品」のようです。また過去に名演と言われたレコードなどで録音が悪いものも多数あります。

録音が良ければ名演になるのでしょうか？絶対にありません！録音に若干の不備があっても（あってはならないのですが）名演はいつまでも名演として後世に残ります。だから失敗は許されないとも言えます。つまり優れた録音とミキシングの作品とは名演といわれる演奏を間違いなく記録することです。

読者皆様におかれましてはまず間違いなくしっかりと録音された優れた優秀作品であると確信しています。しかし優れた優秀作品ではありませんが、音楽作品ではこうした演奏上の問題（名演）を無視してミキシングテクニックのみを評価して優秀な録音制作作品とは言い難いところです。

一方サウンドドラマ制作でのミキシングには優劣が顕著に表れます。前号のモニターリング環境でのダイナミックレンジとSN比との関係音楽録音では、アンサンブルが期待できるもののあらゆる音源を相手にする、サウンドドラマ制作ではレンジの取り方、あるいは様々な音の組み合わせで創る情景、情緒など、それは扱う音に対するエンジニアの感性やテクニックでもあり、ミキシングというテクニックを駆使して全体のアンサンブルをエンジニア自身が創って行くことにあるからです。

音楽を演奏したり作曲したりすることと同じ意味です。音自体を演出構成、ミキシングという演奏テクニックで、作品として創ることです。サウンドドラマ制作では時として作家であり演出家であることがエンジニアに要求され、演奏（ミキシング）までも期待されているのです。

☆ミキシングという技術は演出という要素の具体的な形態

演出家の多くが形容詞を制作時に多用します。「情緒的に登場人物の気持ちでフェードしてください」とか・・・エンジニアの方々には紳士が多いので「ハイ！」と返事しますが「情緒的なフェードってのはどんなフェードなんじゃい？」といったことです。「甘く丸い音？硬い音？」様々ですエンジニアは素材の選択、収録から使い方まで考えて作品創りに対応しています。筆者はサウンドドラマ制作では企画段階、最初からチームで取り組むものと言ってきました。

それぞれ担当、役割分担がありますがお互いがその役割自体を理解しているかが問題です。

エンジニアが演出家の言う通りにミキシングしているのならその存在に意味はありません。機器操作の説明役として作品創りに参加してください。

本来エンジニアは演出家と比較すれば様々な作品創りに参加する機会も多くその経験も豊富です。（サウンドドラマ制作などに参加するエンジニア）そして期待されるのは作品制作上の「あらゆるノウハウ」なのです。演出家は作家や出演者などの作品上のアンサンブル調和などを受け持ち完成へ向けての進行を滞りなく進める役割を担っています。

筆者の勝手な意見ですが、天才的な素養を持つ演出家以外、概ね経験豊かなエンジニアと演出家は作品に対してほぼ同様の解釈や構成演出を共通にしています。

役割り分担の違いからお互いに忖度？はしますが、制作作業では具体的な技術的側面が多く出演者のマイクロフォンワークから素材の選択、音量調整やインアウトなどエンジニアに頼った方が間違いありません。また頼られるエンジニアであることが重要です。

☆演出という要素を含んだミキシング「素材を創る、素材を生かす」

かつてラジオドラマは如何なるシュチエ

ーション設定をも創り出せる魔法の作品と
 言われていました。それは音だけで設定を
 表現するという前提で考えれば、その設定
 はナレーションの一言で表現できてしまう
 という安易な考え方があったからです。

確かにかつては特撮映像ではなかなかリ
 アリティは期待できませんでした。しかし
 今日のCGには驚かされます。もはや映像
 で創り出せないシュチエーション設定はあ
 りません。音の世界でもサラウンドや3D
 などその表現は進化してきましたが、今日
 のCGと比較するとその表現できる次元が
 まるで違います。

例えば昭和初期の銀座の街並みの設定で
 はCGは完璧に再現できますが、音だ
 けで勝負するサウンドドラマでは難しいも
 のがあります。今日の銀座の街並みでも音
 のみで表現するのはかなりの困難がありま
 す。またそこが音のみで表現するサウンド
 ドラマの特徴でもあるのです。

確かにナレーションで表現するのは最も
 単純な方法の一つですがそれに伴う背景音
 などが安易に創られていると作品が陳腐化
 してしまいます。CGも同様です。問題は
 どこまで手をかけて創り込むかということ
 になってきます。

サウンドドラマでは複数の音素材の組み
 合わせによって様々なシュチエーション設
 定に則した背景音を創ります。そこでは演
 出的な素材音の制作や組み合わせなどが重
 要です。新宿駅や渋谷駅周辺の街並みを表
 現すると、その音素材の一つに駅のアナウ
 ンスの声などを遠くに配置する方法など考
 えがちですが、演出的にはどうも陳腐な気
 がします。町行く人の会話の中に109の
 セールの話題、これも一つの方法です。ま
 た他にも陳腐化しない特徴ある音素材があ
 るかもしれません。問題は会話にしても、
 他の素材音を使うにしてもこのシュチエ
 ーション設定を丁寧に創り込まなければなり
 ません。

この作業は台本上に指定することは不可
 能です。作家は単純に渋谷駅周辺街角と表
 現します。エンジニアはそこで演出と知恵
 を出し合って設定を具体的な音で構成成立
 させるのです。



若者が集まる東京の下北沢。週末のコーヒーショップ、店内からジャジーなサウンドが流れる。街ゆく人は足を止め聴き入る。街の喧騒が重なる。サウンドドラマ的には、どう料理するか？(モ)

行き交う人の流れを創り、台詞も書き加
 え、通過する自動車や町の商店からでる様々
 な音も距離やタイミングを考えて創るので
 す。場合によってはその設定の作品上の前
 や後で台詞などによってフォローが必要か
 もしれません。台本などの大きな変更も必
 要となります。しかしそうした努力がシュ
 チエーション設定の背景音を創り出すので
 す。素材音などの制作には演出的な要素と
 技術的な具体性を持ったミキシングなどが
 不可欠であり、それに伴う秀逸なテクニッ
 クはまさに賞に値する技でもあります。

☆サウンドドラマ制作・ミキシング録ると
 いうのではなく創るという意識

音楽制作でのミキシングが「録音する」
 という作業であることは理解の範囲です。
 作曲家や演奏者の創った作品を収録して商
 品として仕上げるのが主な目的です。

サウンドドラマ制作でのミキシングは作
 家や演出家、出演者と一緒に作品を創ると
 いう意識で作品を仕上げて行きます。作家
 や演出家、出演者が創った作品を録音する
 のではありません。

読者皆様の中でサウンドドラマ制作関連
 でお仕事をしている方々にはご理解いた
 けるものと信じています。また今後サウン
 ドドラマ制作関連でお仕事を考えている
 方々には是非こうした意識を大切にしてい
 ただきたいと思えます。

録音機器は飛躍的進化を遂げ今やここ
 の問題はありません。業務用の機器におい
 ていまだに音の良し悪しが語られます。確
 かにエンジニアの主観的な好みは想定内
 ですが・・・

筆者はそれ以前に作品創りに対する使い
 勝手など運用面や機能面に注意を向けてい
 ます。音質など性能面で不満足な製品には
 ここしばらく当たったことがありません。
 どこのメーカーの製品でも十分な性能を維
 持しています。機器の性能など気にせず
 是非創るという意識を大切に音に携わって
 ください。

☆次回は

今回はサウンドドラマ制作ミキシングに
 対する基本的な意識についてお話しをし
 ました。次回以降はさらに具体的創り込み
 のお話しをと考えています。スタジオ夜話
 回はしばらくぶりに音に係わるエピソード
 などお話ししたいと思います。番外編は一
 回お休みです。来月には学校では新学期、
 読者皆様のところでは新入社員などが入
 社してにぎやかな時期となります。暖かく
 なってきますが花粉なども多く健康には
 くれぐれも気を付けてお過ごしください。
 番外編はまだまだ続きますよろしくお願
 いいたします。

— 森田 雅行 —